

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	大阪医療福祉専門学校
設置者名	学校法人 大阪滋慶学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の授業時数又は単位数	省令で定める授業時数又は基準単位数	配置困難
医療専門課程	理学療法士学科 (昼間部3年制)(旧)	夜・通信	540 時間	240 時間	
	理学療法士学科 (昼間部4年制)(新)	夜・通信	540 時間	320 時間	
	作業療法士学科 (昼間部3年制)(旧)	夜・通信	645 時間	240 時間	
	作業療法士学科 (昼間部4年制)(新)	夜・通信	645 時間	320 時間	
	視能訓練士学科 (昼間部1年制)	夜・通信	285 時間	80 時間	
	視能訓練士学科 (昼間部3年制)	夜・通信	495 時間	240 時間	
	医療総合学科 (昼間部2年制)	夜・通信	510 時間	160 時間	
	理学療法士学科 (夜間部4年制)	夜・通信	600 時間	180 時間	
	作業療法士学科 (夜間部4年制)	夜・通信	555 時間	180 時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

理学療法士学科昼間部
https://www.ocmw.ac.jp/_common/pdf/gakkou/johokoukai/syllabus/rigaku_day/jitumu.pdf
作業療法士学科昼間部
https://www.ocmw.ac.jp/_common/pdf/gakkou/johokoukai/syllabus/sagyo_day/jitumu.pdf
視能訓練士学科 1 年制
https://www.ocmw.ac.jp/_common/pdf/gakkou/johokoukai/syllabus/sinou_1/jitumu.pdf
視能訓練士学科 3 年制
https://www.ocmw.ac.jp/_common/pdf/gakkou/johokoukai/syllabus/sinou_3/jitumu.pdf
医療総合学科
https://www.ocmw.ac.jp/_common/pdf/gakkou/johokoukai/syllabus/iryouougou/jitumu.pdf
理学療法士学科夜間部
https://www.ocmw.ac.jp/_common/pdf/gakkou/johokoukai/syllabus/rigaku_night/jitumu.pdf
作業療法士学科夜間部
https://www.ocmw.ac.jp/_common/pdf/gakkou/johokoukai/syllabus/sagyo_night/jitumu.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由) - 言語聴覚士学科 理由：大学卒者が入学対象となり、高校卒業後 5 年以上経過しているため。 - 専攻科（教育・社会福祉専門課程） 理由：本校の診療情報管理士学科 3 年制を卒業したものが入学対象となり、高校卒業後 4 年以上経過しているため。 - 専攻科（医療専門課程） 理由：本校の理学療法士学科昼間部 3 年制・作業療法士学科昼間部 3 年制・視能訓練士学科昼間部 3 年制を卒業したものが入学対象となり、高校卒業後 4 年以上経過しているため。

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	大阪医療福祉専門学校
設置者名	学校法人 大阪滋慶学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

http://osaka.jikeigroup.net/zaimu

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	医療法人警和会大阪警察 病院院長 (2021.9.1～)	2021.6.1～ 2024.5.31	業界の情報収集
非常勤	社会医療法人弘道会 理事長 (2010.4.1～)	2021.6.1～ 2024.5.31	業界の情報収集
非常勤	社会福祉法人恩賜財団 大阪府済生会富田林病院 院長 (2016.4.1～)	2021.6.1～ 2024.5.31	業界の情報収集
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	大阪医療福祉専門学校
設置者名	学校法人 大阪滋慶学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) ① 滋慶学園のミッションとビジョンに従い滋慶学園の3つのポリシー^{#1}が策定され、そのポリシーを踏まえ大阪医療福祉専門学校の3つのポリシー^{#2}を策定した。そこから更に各学科の3つのポリシー^{#3}を策定し、そのディプロマポリシーを達成すべく策定されたカリキュラムポリシーに従い教科課程を作成している。授業計画(シラバス)^{#4}には、科目毎に成績評価方法と基準の記入欄を設け、明記している。試験規程(成績評価基準)^{#5}は、学生便覧に記載しGPA単位認定基準についても明記している。 ② 授業計画書の作成時期は、11月に講師会議の中で作成方法・留意点を説明し、1月下旬までに作成・提出。それを厳正に確認をし、3月中旬にホームページ上で公表、閲覧できるようにしている。	
授業計画書の公表方法	大阪医療福祉専門学校ホームページ(情報公開) #1 https://www.ocmw.ac.jp/_common/pdf/gakkou/johokoukai/46_mission.pdf #2 https://www.ocmw.ac.jp/_common/pdf/gakkou/johokoukai/48_schoolpolicy.pdf #3 https://www.ocmw.ac.jp/_common/pdf/gakkou/johokoukai/51_policy.pdf #4 https://www.ocmw.ac.jp/gakkou/johokoukai/index.html #5 https://www.ocmw.ac.jp/_common/pdf/gakkou/johokoukai/56_evaluation.pdf
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

学習意欲に関しては、すぐに学修成果につながるものではないが授業アンケートを下記内容にて実施することにより、学生に意識化させている。

質問 1 総合的に見てあなたはこの授業に満足していますか

この授業でのあなたの学習への意欲や態度について

学習行動に関するもの

質問 2 シラバスをよく読んで授業にのぞみましたか

質問 3 この授業でどの程度の成績を目標に履修しましたか

質問 4 教員に指示された課題に意欲的に取り組みましたか

質問 5 教員に指示された課題について、授業時間以外に週平均的学習時間はどれくらいでしたか

質問 6 授業を受けたことで触発され、関連する事項について調べたり、考えたり、勉強したりすることを頻繁にしましたか

質問 7 他の学生との協働作業やディスカッション等に積極的に取り組みましたか

質問 8 この授業を通して、あなた自身の行動や態度は変化したと思いましたか

試験やレポートに関しては、前述の試験規程#5 に則り厳格かつ適正に評価している。卒業論文に関しては、学科毎に実施形態が異なっており、個別で実施する学科もあれば、複数名で実施することも多い。各学科で学内発表を行い、学生や参加教員によるルーブリック評価にて優秀演題を選出し、学校全体の卒業研究発表会を実施している。ここでも外部の審査員による評価を実施し優秀演題から更に表彰演題を決定している。

最終的には、前期判定会議・後期判定会議・卒業判定会議を通して履修の認定を行っている。

3、成績評価において、GPAなどの客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)
成績評価において、学則第3章第10条ならびに試験規程(成績評価基準) #6により客観的な指標を示している。成績の分布状況に関しては、5段階評価の評語を4から0までの点数に置き換える。置き換えた点数をGPとし、履修した科目の単位数を掛け合わせた総和(GPT)を履修科目の各単位数の合計で割り分布状況を把握している。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 成績評価において、学則第3章第10条ならびに試験規程(成績評価基準) #5により客観的な指標を示している。成績の分布状況に関しては、5段階評価の評語を4から0までの点数に置き換える。置き換えた点数をGPとし、履修した科目の単位数を掛け合わせた総和(GPT)を履修科目の各単位数の合計で割り分布状況を把握している。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	#5 https://www.ocmw.ac.jp/_common/pdf/gakkou/johokoukai/56_evaluation.pdf 大阪医療福祉専門学校ホームページ(情報公開) https://www.ocmw.ac.jp/gakkou/johokoukai/index.html
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 学則第3章第10条及び学科細則によって認定方針を定め公表している。学則ならびに学科細則に定められた基準に到達しているかに関して、卒業判定会議(学校長・事務局次長・運営教務部長・学術教務部長・教務課長・学科長出席)を開き、判定している。卒業判定会議は、議事録を作成し保管しており、いつでも公表できる状態である。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	大阪医療福祉専門学校ホームページ(情報公開) https://www.ocmw.ac.jp/gakkou/johokoukai/index.html

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	大阪医療福祉専門学校
設置者名	学校法人 大阪滋慶学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://osaka.jikeigroup.net/pc/zaimu/2023/04taisyaku.html
収支計算書又は損益計算書	http://osaka.jikeigroup.net/pc/zaimu/2023/01shikin.html
財産目録	http://osaka.jikeigroup.net/pc/zaimu/2023/05zaisan.html
事業報告書	http://osaka.jikeigroup.net/pc/zaimu/2023/jigyohoukoku.pdf
監事による監査報告（書）	http://osaka.jikeigroup.net/pc/zaimu/2023/06kansa.html

2. 教育活動に係る情報

学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
医療		専門課程	理学療法士学科 (昼間部 3 年制)		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
3 年	昼	3130 単位時間	540 時間	1710 時間	880 時間	時間	時間	
			3130 単位時間					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数		専任教員数		兼任教員数	総教員数
80 人		83 人	0 人		7 人		16 人	23 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 教科課程（理学療法士学科）により、3年間の授業計画を示し、授業計画（シラバス）により年度毎の詳細な授業方法や内容を示している。
成績評価の基準・方法
（概要） 試験規程（成績評価基準）は、学生便覧に記載し GPA 単位認定基準（1単位15時間）についても明記している。各科目においては、授業計画（シラバス） ^{#5} により成績評価の方法についても示している。
卒業・進級の認定基準
【様式第2号の3より再掲】 学則第3章第10条及び学科細則によって認定方針を定め公表している。 学則ならびに学科細則に定められた基準に到達しているかに関して、卒業判定会議及び進級判定会議（学校長・事務局次長・教務部長・教務課長・学科長出席）を開き、判定している。両会議ともに、議事録を作成し保管しており、いつでも公表できる状態である。
学修支援等

(概要) 入学前には、プレカレッジを学校全体で2回、学科で3回実施している。通信添削課題として学習トレーニングシート(一般教養)を実施している。 入学後は、ポートフォリオとして週間行動計画書の提出により、食事・睡眠・勉強時間・アルバイト時間等を共有し生活習慣の安定と自己学習時間の確保につながるように支援している。 特に解剖学・運動学・生理学に関しては、重要な基礎科目であるため、担任により習得のサポート授業や補講などの対策を実施している。
--

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
40 人 (100%)	6 人 (15%)	34 人 (85%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) リハビリテーション病院、総合病院、一般病院、クリニック、老人保健施設			
(就職指導内容) 就職虎の巻を作成し、SPI 試験の対策や、模擬面接、履歴書の記載指導、マナー研修、メイク研修を実施している。 1 年生から就職フェア(合同就職説明会)に参加し、施設の方々から生の情報収集などを行う。事前に施設の下調べをした上で質問項目をリストアップしておく。			
(主な学修成果(資格・検定等)) 理学療法士(国家資格)			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
125 人	2 人	1.6%
(中途退学の主な理由) 学業不振・進路変更・心身の不調		
(中退防止・中退者支援のための取組) ポートフォリオとして週間行動計画書の提出により、食事・睡眠・勉強時間・アルバイト時間等を共有し生活習慣の安定と自己学習時間の確保につながるように支援している。 この状況を把握することで、早期に担任が変化に気づき中途退学にならないように支援を行う。		

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
医療		専門課程	理学療法士学科 (昼間部 4 年制)					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	

4 年	昼	3450 単位時間		600 時間	2050 時間	800 時間	時間	時間
				3130 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数		兼任教員数		総教員数
40 人		44 人	0 人	7 人		16 人		23 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 教科課程(理学療法士学科)により、4 年間の授業計画を示し、授業計画（シラバス）により年度毎の詳細な授業方法や内容を示している。
成績評価の基準・方法
（概要） 試験規程（成績評価基準）は、学生便覧に記載し GPA 単位認定基準（1 単位 15 時間）についても明記している。各科目においては、授業計画（シラバス） ^{#5} により成績評価の方法についても示している。
卒業・進級の認定基準
【様式第 2 号の 3 より再掲】 学則第 3 章第 10 条及び学科細則によって認定方針を定め公表している。 学則ならびに学科細則に定められた基準に到達しているかに関して、卒業判定会議及び進級判定会議（学校長・事務局次長・教務部長・教務課長・学科長出席）を開き、判定している。両会議ともに、議事録を作成し保管しており、いつでも公表できる状態である。
学修支援等
（概要） 入学前には、プレカレッジを学校全体で 2 回、学科で 3 回実施している。通信添削課題として学習トレーニングシート(一般教養)を実施している。 入学後は、ポートフォリオとして週間行動計画書の提出により、食事・睡眠・勉強時間・アルバイト時間等を共有し生活習慣の安定と自己学習時間の確保につながるように支援している。 特に解剖学・運動学・生理学に関しては、重要な基礎科目であるため、担任により習得のサポート授業や補講などの対策を実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
※2023. 4. 1 開講のため記載なし	※2023. 4. 1 開講のため記載なし	※2023. 4. 1 開講のため記載なし	※2023. 4. 1 開講のため記載なし
（主な就職、業界等） ※2023. 4. 1 開講のため、記載なし			
（就職指導内容） 就職虎の巻を作成し、SPI 試験の対策や、模擬面接、履歴書の記載指導、マナー研修、メイク研修を実施する予定。 1 年生から就職フェア(合同就職説明会)に参加し、施設の方々から生の情報収集などを行う。事前に施設の下調べをした上で質問項目をリストアップしておく。			

(主な学修成果(資格・検定等)) 理学療法士(国家資格)
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
※2023. 4. 1 開講のため記載なし	※2023. 4. 1 開講のため記載なし	※2023. 4. 1 開講のため記載なし
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) ポートフォリオとして週間行動計画書の提出により、食事・睡眠・勉強時間・アルバイト時間等を共有し生活習慣の安定と自己学習時間の確保につながるように支援している。この状況を把握することで、早期に担任が変化に気付き中途退学にならないように支援を行う。		

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
医療		専門課程	作業療法士学科 (昼間部 3 年制)		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
3 年	昼	3570 単位時間	1365 時間	655 時間	1550 時間	時間	時間	
			3570 単位時間					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80 人		82 人	0 人	6 人	25 人	31 人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
教科課程(作業療法士学科)により、3 年間の授業計画を示し、授業計画 (シラバス) により年度毎の詳細な授業方法や内容を示している。
成績評価の基準・方法
試験規程 (成績評価基準) は、学生便覧に記載し GPA 単位認定基準 (1 単位 15 時間) についても明記している。各科目においては、授業計画 (シラバス) # ⁵ により成績評価の方法についても示している。
卒業・進級の認定基準
【様式第 2 号の 3 より再掲】 学則第 3 章第 10 条及び学科細則によって認定方針を定め公表している。 学則ならびに学科細則に定められた基準に到達しているかに関して、卒業判定会議及び進級判定会議 (学校長・事務局次長・教務部長・教務課長・学科長出席) を開き、判定している。両会議ともに、議事録を作成し保管しており、いつでも公表できる状態である。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
39 人 (100%)	8 人 (20.5%)	26 人 (66.7%)	5 人 (12.8%)
（主な就職、業界等） リハビリテーション病院、総合病院、一般病院			
（就職指導内容） 就職虎の巻を作成し、SPI 試験の対策や、模擬面接、履歴書の記載指導、マナー研修、メイク研修を実施している。 1 年生から就職フェア（合同就職説明会）に参加し、施設の方々から生の情報収集などを行う。事前にジョブカードを用い施設の下調べをした上で質問項目をリストアップしておく。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 作業療法士（国家資格）・福祉住環境コーディネーター2 級			
（備考）（任意記載事項）			
学修支援など 入学前には、プレカレッジを学校全体で 2 回、学科で 4 回実施している。通信添削課題として学習トレーニングシート（数学教養）を実施している。 入学後は、ポートフォリオとして週間行動計画書の提出により、食事・睡眠・勉強時間・アルバイト時間等を共有し生活習慣の安定と自己学習時間の確保につながるように支援している。 寺子屋方式により、どの科目であってもかまわないので専任教員が質問を受ける環境を作っている。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
127 人	5 人	3.9%
（中途退学の主な理由） 学業不振・学校生活不適合・進路変更・心身の不調		
（中退防止・中退者支援のための取組） ポートフォリオとして週間行動計画書の提出により、食事・睡眠・勉強時間・アルバイト時間等を共有し生活習慣の安定と自己学習時間の確保につながるように支援している。 この状況をゼミの担当教員が把握することで、クラス担任と双方からサポートでき、早期に変化に気付くことで中途退学にならないように支援を行う。		

分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士	
医療		専門課程		作業療法士学科 (昼間部 4 年制)					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数		開設している授業の種類					
				講義	演習	実習	実験	実技	
4 年	昼	3765 単位時間		1125 時間	1635 時間	1005 時間	時間	時間	
				3765 単位時間					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数		専任教員数		兼任教員数		総教員数
40 人		34 人	0 人		6 人		25 人		31 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
教科課程（作業療法士学科）により、3 年間の授業計画を示し、授業計画（シラバス）により年度毎の詳細な授業方法や内容を示している。
成績評価の基準・方法
試験規程（成績評価基準）は、学生便覧に記載し GPA 単位認定基準（1 単位 15 時間）についても明記している。各科目においては、授業計画（シラバス） ^{#5} により成績評価の方法についても示している。
卒業・進級の認定基準
【様式第 2 号の 3 より再掲】 学則第 3 章第 10 条及び学科細則によって認定方針を定め公表している。 学則ならびに学科細則に定められた基準に到達しているかに関して、卒業判定会議及び進級判定会議（学校長・事務局次長・教務部長・教務課長・学科長出席）を開き、判定している。両会議ともに、議事録を作成し保管しており、いつでも公表できる状態である。
学修支援等
入学前には、プレカレッジを学校全体で 2 回、学科で 4 回実施している。通信添削課題として学習トレーニングシート(数学教養)を実施している。 入学後は、ポートフォリオとして週間行動計画書の提出により、食事・睡眠・勉強時間・アルバイト時間等を共有し生活習慣の安定と自己学習時間の確保につながるように支援している。 寺子屋方式により、どの科目であってもかまわないので専任教員が質問を受ける環境を作っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
※2023. 4. 1 開講のため記載なし	※2023. 4. 1 開講のため記載なし	※2023. 4. 1 開講のため記載なし	※2023. 4. 1 開講のため記載なし
（主な就職、業界等） ※2023. 4. 1 開講			
（就職指導内容） 就職虎の巻を作成し、SPI 試験の対策や、模擬面接、履歴書の記載指導、マナー研修、メイク研修を実施する予定。 1 年生から就職フェア（合同就職説明会）に参加し、施設の方々から生の情報収集などを行う。 事前にジョブカードを用い施設の下調べをした上で質問項目をリストアップしておく。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 作業療法士（国家資格）・福祉住環境コーディネーター2 級			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
※2023. 4. 1 開講のため記載なし	※2023. 4. 1 開講のため記載なし	※2023. 4. 1 開講のため記載なし
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） ポートフォリオとして週間行動計画書の提出により、食事・睡眠・勉強時間・アルバイト時間等を共有し生活習慣の安定と自己学習時間の確保につながるように支援している。 この状況をゼミの担当教員が把握することで、クラス担任と双方からサポートでき、早期に変化に気付くことで中途退学にならないように支援を行う。		

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
医療		専門課程	視能訓練士学科 (昼間部 3 年制)		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数		開設している授業の種類				
				講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	2895 単位時間		1245 時間	690 時間	960 時間	時間	時間
	2895 単位時間							
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数		専任教員数		兼任教員数	総教員数
105 人		102 人	0 人		6 人		15 人	21 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
教科課程（視能訓練士学科 昼間部 3 年制）により、3 年間の授業計画を示し、授業計画（シラバス）により詳細な授業方法や内容を示している。
成績評価の基準・方法
試験規程（成績評価基準）は、学生便覧に記載し GPA 単位認定基準（1 単位 15 時間）についても明記している。各科目においては、授業計画（シラバス）により成績評価の方法についても示している。
卒業・進級の認定基準
【様式第 2 号の 3 より再掲】 学則第 3 章第 10 条及び学科細則によって認定方針を定め公表している。 学則ならびに学科細則に定められた基準に到達しているかに関して、卒業判定会議及び進級判定会議（学校長・事務局次長・教務部長・教務課長・学科長出席）を開き、判定している。両会議ともに、議事録を作成し保管しており、いつでも公表できる状態である。
学修支援等
入学前には、プレカレッジを学校全体で 2 回、学科で 4 回実施している。通信添削課題として学習トレーニングシート（一般教養・漢字・数学Ⅰ）を実施している。 入学後は、ポートフォリオとして週間行動計画書の提出により、食事・睡眠・勉強時間・アルバイト時間等を共有し生活習慣の安定と自己学習時間の確保につながるように支援している。 各授業で行われている小テストのまとめ試験を実施 8 割取れるまで再試験を行っている。 1 年次からマイノートという国家試験対策につながるノートをまとめさせている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
37 人 (100%)	4 人 (10.8%)	33 人 (89.2%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） 総合病院、眼科専門病院、クリニック			
（就職指導内容） 就職虎の巻を作成し、SPI 試験の対策や、模擬面接、履歴書の記載指導、マナー研修、メイク研修を実施している。 1 年生から就職フェア（合同就職説明会）に参加し、施設の方々から生の情報収集などを行う。事前にジョブカードを用い施設の下調べをした上で質問項目をリストアップしておく。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 視能訓練士（国家資格）			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
114 人	10 人	8.8%

(中途退学の主な理由) 学業不振・学校生活不適合・進路変更
(中退防止・中退者支援のための取組) ポートフォリオとして週間行動計画書の提出により、食事・睡眠・勉強時間・アルバイトの時間等を共有し生活習慣の安定と自己学習時間の確保につながるように支援している。

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
医療		専門課程	医療総合学科 (昼間部 2 年制)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位 数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	2235 単位時間	300 時間	1710 時間	225 時間	時間	時間
			2235 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人		47 人	0 人	4 人	9 人	13 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
教科課程により、2 年間の授業計画を示し、授業計画（シラバス）により詳細な授業方法や内容を示している。
成績評価の基準・方法
試験規程（成績評価基準）は、学生便覧に記載し GPA 単位認定基準(1 単位 15 時間)についても明記している。各科目においては、授業計画（シラバス）により成績評価の方法についても示している。
卒業・進級の認定基準
【様式第 2 号の 3 より再掲】 学則第 3 章第 10 条及び学科細則によって認定方針を定め公表している。 学則ならびに学科細則に定められた基準に到達しているかに関して、卒業判定会議及び進級判定会議（学校長・事務局次長・教務部長・教務課長・学科長出席）を開き、判定している。両会議ともに、議事録を作成し保管しており、いつでも公表できる状態である。
学修支援等
入学前には、プレカレッジを学校全体で 2 回、学科で 4 回実施している。通信添削課題として学習トレーニングシート(一般教養・漢字・時事ワーク・生物 A)を実施している。入学後は、ポートフォリオとして週間行動計画書の提出により、食事・睡眠・勉強時間・アルバイト時間等を共有し生活習慣の安定と自己学習時間の確保につながるように支援している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他

44 人 (100%)	23 人 (52.3%)	19 人 (43.2%)	2 人 (4.5%)
(主な就職、業界等) 病院・クリニック			
(就職指導内容) 就職虎の巻を作成し、SPI 試験の対策や、模擬面接、履歴書の記載指導、マナー研修、メイク研修を実施している。 1 年生から就職フェア(合同就職説明会)に参加し、施設の方々から生の情報収集などを行う。 事前にジョブカードを用い施設の下調べをした上で質問項目をリストアップしておく。			
(主な学修成果(資格・検定等)) ドクターズマーク・医療秘書技能検定・語彙読解力検定			
(備考) 2021 年度学科設置			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
73 人	4 人	5.5%
(中途退学の主な理由) 学業不振・進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) ポートフォリオとして週間行動計画書の提出により、食事・睡眠・勉強時間・アルバイトの時間等を共有し生活習慣の安定と自己学習時間の確保につながるように支援している。		

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
医療		専門課程	理学療法士学科 (夜間部 4 年制)		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位 数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
4 年	夜	3130 単位時間	570 時間	1610 時間	880 時間	時間	時間	
			3130 単位時間					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数		兼任教員数		総教員数
160 人		157 人	0 人	6 人		16 人		22 人

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
教科課程(理学療法士学科)により、4 年間の授業計画を示し、授業計画(シラバス)により年度毎の詳細な授業方法や内容を示している。
成績評価の基準・方法

試験規程（成績評価基準）は、学生便覧に記載し GPA 単位認定基準（1 単位 15 時間）についても明記している。各科目においては、授業計画（シラバス）により成績評価の方法についても示している。
卒業・進級の認定基準
【様式第 2 号の 3 より再掲】 学則第 3 章第 10 条及び学科細則によって認定方針を定め公表している。 学則ならびに学科細則に定められた基準に到達しているかに関して、卒業判定会議及び進級判定会議（学校長・事務局次長・教務部長・教務課長・学科長出席）を開き、判定している。両会議ともに、議事録を作成し保管しており、いつでも公表できる状態である。
学修支援等
入学前には、プレカレッジを学校全体で 2 回、学科で 3 回実施している。通信添削課題として学習トレーニングシート（一般教養）を実施している。 入学後は、ポートフォリオとして週間行動計画書の提出により、食事・睡眠・勉強時間・アルバイト時間等を共有し生活習慣の安定と自己学習時間の確保につながるように支援している。 特に解剖学・運動学・生理学に関しては、重要な基礎科目であるため、担任により習得のサポート授業や補講などの対策を実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
40 人 (100%)	0 人 (0%)	40 人 (100%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） リハビリテーション病院、総合病院、一般病院、老人保健施設、クリニック、訪問看護ステーション			
（就職指導内容） 就職虎の巻を作成し、SPI 試験の対策や、模擬面接、履歴書の記載指導、マナー研修、メイク研修を実施している。 1 年生から就職フェア（合同就職説明会）に参加し、施設の方々から生の情報収集などを行う。事前にジョブカードを用い施設の下調べをした上で質問項目をリストアップしておく。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 理学療法士（国家資格）			
（備考）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
167 人	14 人	8.4%
（中途退学の主な理由） 学業不振・進路変更・経済面・家庭問題		
（中退防止・中退者支援のための取組） ポートフォリオとして週間行動計画書の提出により、食事・睡眠・勉強時間・アルバイト時間等を共有し生活習慣の安定と自己学習時間の確保につながるように支援している。 この状況を把握することで、早期に担任が変化に気づき中途退学にならないように支援		

を行う。

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
医療		専門課程	作業療法士学科 (夜間部 4 年制)		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位 数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
4 年	夜	3300 単位時間	1020 時間	585 時間	1500 時間	時間	時間	
			3300 単位時間					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数		総教員数	
160 人		141 人	0 人	6 人	25 人		31 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
教科課程（作業療法士学科）により、4 年間の授業計画を示し、授業計画（シラバス）により年度毎の詳細な授業方法や内容を示している。
成績評価の基準・方法
試験規程（成績評価基準）は、学生便覧に記載し GPA 単位認定基準（1 単位 15 時間）についても明記している。各科目においては、授業計画（シラバス）により成績評価の方法についても示している。
卒業・進級の認定基準
【様式第 2 号の 3 より再掲】 学則第 3 章第 10 条及び学科細則によって認定方針を定め公表している。 学則ならびに学科細則に定められた基準に到達しているかに関して、卒業判定会議及び進級判定会議（学校長・事務局次長・教務部長・教務課長・学科長出席）を開き、判定している。両会議ともに、議事録を作成し保管しており、いつでも公表できる状態である。
学修支援等
入学前には、プレカレッジを学校全体で 2 回、学科で 4 回実施している。通信添削課題として学習トレーニングシート（一般教養）を実施している。 入学後は、ポートフォリオとして週間行動計画書の提出により、食事・睡眠・勉強時間・アルバイト時間等を共有し生活習慣の安定と自己学習時間の確保につながるように支援している。 木曜日の夕方には、寺子屋という場を開き、どの科目であってもかまわないので専任教員が質問を受ける環境を作っている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
34 人 (100%)	0 人 (0%)	30 人 (88.2%)	4 人 (11.8%)

(主な就職、業界等) リハビリテーション病院、総合病院、一般病院、老人保健施設、クリニック
(就職指導内容) 就職虎の巻を作成し、SPI 試験の対策や、模擬面接、履歴書の記載指導、マナー研修、メイク研修を実施している。 1 年生から就職フェア(合同就職説明会)に参加し、施設の方々から生の情報収集などを行う。 事前にジョブカードを用い施設の下調べをした上で質問項目をリストアップしておく。
(主な学修成果(資格・検定等)) 作業療法士(国家資格)・福祉住環境コーディネーター2 級
(備考)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
150 人	12 人	8%
(中途退学の主な理由) 学業不振・心身の不調・進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) ポートフォリオとして週間行動計画書の提出により、食事・睡眠・勉強時間・アルバイト時間等を共有し生活習慣の安定と自己学習時間の確保につながるように支援している。 この状況をゼミの担当教員が把握することで、クラス担任と双方からサポートでき、早期に変化に気付くことで中途退学にならないように支援を行う。		

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
医療		専門課程	視能訓練士学科 (昼間部 1 年制)					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位 数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
1 年	昼	1485 単位時間	720 時間	30 時間	735 時間	時間	時間	
			1485 単位時間					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数		専任教員数		兼任教員数	総教員数
35 人		44 人	0 人		4 人		5 人	9 人

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
教科課程(視能訓練士学科 1 年制)により、1 年間の授業計画を示し、授業計画(シラバス)により年度毎の詳細な授業方法や内容を示している。

成績評価の基準・方法
試験規程（成績評価基準）は、学生便覧に記載し GPA 単位認定基準（1 単位 15 時間）についても明記している。各科目においては、授業計画（シラバス）により成績評価の方法についても示している。
卒業・進級の認定基準
【様式第 2 号の 3 より再掲】 学則第 3 章第 10 条及び学科細則によって認定方針を定め公表している。 学則ならびに学科細則に定められた基準に到達しているかに関して、卒業判定会議及び進級判定会議（学校長・事務局次長・教務部長・教務課長・学科長出席）を開き、判定している。両会議ともに、議事録を作成し保管しており、いつでも公表できる状態である。
学修支援等
入学前には、プレカレッジを学校全体で 2 回、学科で 4 回実施している。通信添削課題として学習トレーニングシート（一般教養）を実施している。 入学後は、ポートフォリオとして週間行動計画書の提出により、食事・睡眠・勉強時間・アルバイト時間等を共有し生活習慣の安定と自己学習時間の確保につながるように支援している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
39 人 100（％）	0 人 (0%)	37 人 (94.9%)	2 人 (5.1%)
（主な就職、業界等） 総合病院、眼科専門病院、クリニック			
（就職指導内容） 就職虎の巻を作成し、SPI 試験の対策や、模擬面接、履歴書の記載指導、マナー研修、メイク研修を実施している。 1 年生から就職フェア（合同就職説明会）に参加し、施設の方々から生の情報収集などを行う。事前にジョブカードを用い施設の下調べをした上で質問項目をリストアップしておく。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 視能訓練士（国家資格）			
（備考）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
42 人	1 人	2.4%
（中途退学の主な理由） 学業不振・心身の不調・進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） ポートフォリオとして週間行動計画書の提出により、食事・睡眠・勉強時間・アルバイト時間等を共有し生活習慣の安定と自己学習時間の確保につながるように支援している。		

この状況をゼミの担当教員が把握することで、クラス担任と双方からサポートでき、早期に変化に気付くことで中途退学にならないように支援を行う。

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
理学療法士学科 (昼間部 3 年制)	300,000 円	1,000,000 円	480,000 円	
理学療法士学科 (昼間部 4 年制)	300,000 円	900,000 円	280,000 円	
作業療法士学科 (昼間部 3 年制)	300,000 円	1,000,000 円	480,000 円	
作業療法士学科 (昼間部 4 年制)	300,000 円	1,000,000 円	280,000 円	
視能訓練士学科 (昼間部 1 年制)	300,000 円	900,000 円	365,000 円	
視能訓練士学科 (昼間部 3 年制)	300,000 円	900,000 円	380,000 円	
医療総合学科 (昼間部 2 年制)	100,000 円	1,000,000 円	130,000 円	
理学療法士学科 (夜間部 4 年制)	200,000 円	700,000 円	270,000 円	
作業療法士学科 (夜間部 4 年制)	200,000 円	700,000 円	270,000 円	
修学支援（任意記載事項）				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.ocmw.ac.jp/gakkou/johokoukai/
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）
<u>I. 基本方針</u> 学校評価を活用した専修学校教育の質の保証・向上を目指すことを目的に病院等と連携し質の保証・向上に対してより効果的な先進的取組の推進を目指す。
<u>II. 計画と方法</u> 職業実践専門課程における認定要件について、病院等と連携し質の保証・向上に対してより効果的な先進的取組の推進を目指す。 自己点検・評価委員会を設置し、各項目の設定、実施、報告を行う。学校関係者評価

委員会を年1回(6月)実施し、自己点検・評価結果を客観的に確認評価する。教育課程編成委員会を年2回(6月、1月)学科ごとの委員会を年2回実施し、病院・施設と組織的な連携を確保し、授業科目等教育課程を編成する。

学校概要・理念・目標・教育内容・学生支援等及び財務内容等、積極的な情報公開を実行する。2021年度より Microsoft teams を導入しさらに遠隔授業等が容易に行えるようになった。どのような状況であっても学びを止めない環境を整える。

Ⅲ. 2023年度重点目標と計画・方法

① 総合型リハビリテーション学校としての基盤を構築する

理学療法士学科昼間部・作業療法士学科昼間部の4年制への修業年限の変更。また両学科夜間部コース活動の運営。視能訓練士学科3年制のこどもeyeコース専攻科を設置。

② ICTを活用した学習への転換

ICTを活用し、いつでもどこでも学習できる環境を構築する。主に動画での予習を行い、反転授業ができる環境や Teams・Moodle を活用した自学自習できる環境を作る。

③ 中途退学者4%以内、入学→国試合格率90%以上

中途退学者に関しては1年次の退学者を減少させることに注力する。特に4～6月で生活習慣を確立し、7月以降学習習慣の定着を目指す。また、入学してストレートに国試合格率に対し、学校・学科の評価基軸にする。

④ キャリアビジョンを明確にし就職率100%

就職100%を当然の事と捉え、学生一人ひとりが自分の5年先を明確にし、就職活動が行えるようにキャリア教育を行う。

入学年次には卒業生を中心とした接触の機会を設け、進級学年時には業界講演を行い、自らのキャリアを考える機会を設ける。

⑤ 卒業学年の国家試験受験率100%

学内での進級・卒業基準をクリアすることで100%国家試験合格できるような指導体制を構築する。進級学年での前後期の終わりに国家試験に対する学びのチェックとして、国家試験模試を実施し得意・不得意分野を明確にする。

⑥ 目的・目標が明確な入学生330名

就業学年内の学びを明確にし、大阪医療福祉で学びたいという入学生330名入学を目標にする。オープンキャンパス・入試・プレスクール・初年次教育と一貫した指導を継続する。

⑦ 学費支払い困難で学業継続できない学生0名

就学支援制度や奨学金(病院・日本学生支援機構)を活用するだけでなく、病院等でのアルバイト先を斡旋し就学困難な学生の支援を行う。

⑧ FD/SDによる教職員の資質の向上

学園・学内での研修だけでなく、学外での活動や研修会への参加を推進し、教員・事務職員が共同して教育の質の向上を目指す。

また、自らの専門領域だけでなく第二領域を作る事を推進する。

⑨ 働きやすい環境の構築

学内における業務の棚卸を行い、役職者が積極的に無駄の削減する。また、ICTを

活用し業務効率を上げる活動を推進する。安全衛生委員会と連動し、学内環境の整備を行う。		
⑩ 防災・防犯の意識向上 年一回の防災訓練だけでなく、防犯訓練も行い、学校が安全・安心な場所になるように取り組む。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
大阪府作業療法士会 日本作業療法士協会	2022. 4. 1～ 2024. 3. 31	業界代表
日本医療秘書学会 一般財団法人 住友病院	2023. 4. 1～ 2024. 3. 31	業界代表
大阪府 眼科医会	2022. 4. 1～ 2024. 3. 31	業界代表
南草津病院	2022. 4. 1～ 2024. 3. 31	卒業生代表
大阪府立茨木西高等学校	2022. 4. 1～ 2024. 3. 31	高校関係者代表
保護者	2022. 4. 1～ 2024. 3. 31	保護者代表
法務省淀川地区保護司会	2022. 4. 1～ 2024. 3. 31	近隣関係者代表
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.ocmw.ac.jp/gakkou/johokoukai/schoolEvaluation/2022.html		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.ocmw.ac.jp/
--

(別紙)

- ※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。
- ※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	H127310001735
学校名	大阪医療福祉専門学校
設置者名	学校法人 大阪滋慶学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		137 人	130 人	146 人
内 訳	第Ⅰ区分	82 人	74 人	
	第Ⅱ区分	33 人	35 人	
	第Ⅲ区分	22 人	21 人	
家計急変による支援対象者（年間）				0 人
合計（年間）				146 人
(備考)				

- ※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。
- ※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0 人
----	-----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定		0 人	0 人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)		0 人	0 人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況		0 人	0 人
「警告」の区分に連続して該当		0 人	0 人
計			
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）			
年間		前半期	０人	後半期	０人

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	-
３月以上の停学	０人
年間計	-
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

３．前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（３月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

３月未満の停学	０人
訓告	０人
年間計	０人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下）		0人	0人
G P A等が下位4分の1		0人	0人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況		0人	0人
計			
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。